

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		元吉田支援教室				公表日	令和8年 4月 1日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	67%	33%	活動内容や利用人数に応じて、机を重ねたり端に寄せるなどしてスペースを確保する工夫をしています。また、身体を動かすカリキュラムの際にはテーブルを移動させるなど、安全に活動できる環境づくりに対応しています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%	0%		利用定員や子どもの状態に対して職員配置は適切である一方で、個別対応が必要な場面では一時的に職員配置が手薄になる場合があります。今後は職員同士の連携や役割分担を意識し、状況に応じて柔軟に対応できる体制づくりに努めていきます。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	83%	17%	子どもたちが出入りする際には職員を配置し、安全確認を行っています。また、階段の上と下、職員玄関の通路にはチャイルドゲートを設置し、子どもたちが安全に過ごせるよう対応しています。	建物の構造上、完全なバリアフリー化が難しい点や、利用人数が多い日にはダンスなど身体を動かすカリキュラムでスペースが狭く感じられる場合があります。今後も活動内容や人数に応じて環境調整を行い、安全に活動できる空間づくりに対応していきます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	83%	17%	毎日、ドアノブやロッカーなど手が触れる場所の除菌を行い、清潔な環境づくりに配慮しています。また、活動内容に応じて机や備品を移動するなどスペースを確保し、安全に活動できるよう環境調整を行っています。	利用人数が多い日には、ダンスなど体を動かすカリキュラムの際に部屋が狭く感じる場合があります。活動内容や人数に応じてスペースの使い方を工夫しながら、安全に活動できる環境づくりを行っています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	静養室を設けており、必要に応じて個別に使用できる環境となっています。体調不良時や気持ちを落ち着かせる必要がある場合には静養室を使用し、状況に応じて職員が付き添い対応しています。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%	0%			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	定期的な教室ミーティングを行い、職員が意見を出し合える機会を設けています。ミーティングで出た意見や気づきを共有し、必要に応じて業務改善につなげています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%	0%	第三者委員会を設置しています。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	外部研修への参加機会を設けるとともに、グループ内でも定期的に研修を行っています。また、外部の講師を招いた研修も実施し、職員の資質向上につながる機会を確保しています。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%	0%			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	個別支援計画は児童発達支援管理責任者が作成していますが、モニタリングは担当職員を毎回変えて行い、複数の職員の視点から子どもの様子を把握できるようにしています。これにより、職員間で情報共有を行いながら支援内容の検討につなげています。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%			

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	カリキュラム委員会を中心となり、土曜日や長期休みのカリキュラムを決めています。内容は職員間で共有し、様々な活動を取り入れたプログラムを実施しています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	お子様一人ひとりの状況に応じて、同じ活動内容でも工程や取り組み方を調整し、個別の対応ができるよう支援しています。また、必要に応じて個別活動と集団活動を組み合わせながら支援を行っています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	67%	33%	必要に応じて職員間で打合せを行い、その日の支援内容や注意点を共有しながら支援を行っています。また、状況に応じて役割分担を確認し、職員同士で連携して対応しています。	時間の都合により十分なミーティングが取れず、カリキュラム内容を急遽決めたり準備に慌てしまう場合があります。また、支援直前や前日に共有してしまうこともあるため、今後は一週間前を目安に注意点を含めた全体周知を行い、職員間で余裕をもって準備や役割確認ができるよう改善していきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	33%	67%	支援終了後に限らず、支援中や後日など必要に応じて職員間で話し合いを行い、気付いた点や子どもの様子を共有しています。また、送迎等で全員が集まれない場合にはLINEを活用し、情報共有を行っています。	送迎の時間等の兼ね合いもあり、その日のうちに振り返りのミーティングができない場合があります。必要に応じた打合せは行っていますが毎回ではないため、振り返りを行う時間を確保し、職員間で共有できる体制を整えていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	83%	17%	日々の支援の様子については職員間で情報共有を行い、子どもの様子や気づいた点を共有しています。	支援の記録として十分に残っていない部分があるため、今後はモニタリング自由記述用紙をより活用し、日々の支援内容や子どもの様子を記録として残し、支援の検証や改善につなげていきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%	0%		
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%	0%			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%	0%	学校へのお迎え時に、学校での様子や行事予定、下校時間などについて確認し情報共有を行っています。また、学校のホームページから年間行事予定などを確認し、職員間で共有しています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	83%	17%	児童発達支援から放課後等デイサービスへ移行する際には、相談支援専門員からの情報提供を受け、子どもの状況やこれまでの支援内容について情報共有を行っています。	現状では保育所や幼稚園等への見学や直接的な情報共有まで行っていないため、今後は必要に応じて関係機関との連携を図り、相互理解につながる情報共有の機会を増やしていきます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	67%	33%	今後利用する可能性のある就労継続支援B型事業所や生活介護事業所とは、連絡が取れる関係を築いています。	現在は卒業して移行した利用者がいないため情報提供の実績はありませんが、今後該当する利用者がある場合には、これまでの支援内容や子どもの様子について関係機関へ情報共有を行えるよう対応していきます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	100%	0%	水戸市子ども部会に参加し、他事業所との情報交換や情報共有を行う機会を設けています。また、必要に応じて関係機関と連携しながら支援につなげています。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	17%	83%	公共施設や公園等へ外出した際には、地域の子どもたちと自然に関わる機会があります。また、QOL内での交流の機会が設けられています。	放課後児童クラブや児童館などとの交流の機会は少ない状況です。今後は地域の子どもたちと関わる機会を増やすことで、様々な経験につながるような取り組みを検討していきます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	83%	17%	児童発達支援管理責任者が水戸市子ども部会に参加し、関係機関との情報交換や情報共有を行っています。	現在は児童発達支援管理責任者の参加が中心となっているため、他の職員からも参加したいという声があることから、今後は参加の機会について検討していきます。

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	送迎時に当日の様子や出来事を保護者へ伝え、子どもの状況について情報共有を行っています。また、日頃から保護者とのコミュニケーションを大切に、子どもの発達状況や課題について共通理解を持てるよう対応しています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	50%	50%	保護者との面談の機会を設け、家庭での様子や困りごとについて話を伺いながら情報共有を行っています。	家族支援プログラムや研修の機会の提供までは実施できていない状況です。今後、必要に応じて情報提供や研修の機会につなげられるよう検討していきます。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	保護者には個別アンケートを実施し意向を確認しています。また、子どもに対しても日頃から気持ちや意思を聞く機会を設け、意向を踏まえながら支援につなげています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%	0%		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	年に2回、面談期間を設け保護者からの相談に対応しています。また、LINEでも随時相談できるようにし、必要に応じて助言や支援につなげています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	33%	67%	保護者会を開催し、保護者同士が交流できる機会を設けています。また、イベントや送迎時に保護者同士が顔を合わせた際に世間話をする様子も見られ、自然な形で交流が生まれています。運動会ではきょうだいも参加できる機会があり、一緒に	保護者会の開催はありますが、きょうだい同士が交流できる機会は多くない状況です。今後はきょうだいも参加しやすい交流の機会について検討していきます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	「くおりでたより」を発行するとともに、Instagramを活用し、活動の様子や行事予定などの情報を毎月発信しています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	個人情報に関する書類は鍵付き書庫で保管し、個人情報の取扱いに十分留意して管理しています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%	0%	2年に1度、QOL全体でイベントを開催し、地域の方との交流の機会を設けています。地域との関わりを持ちながら、開かれた事業運営につながるよう取り組んでいます。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%	年に2回避難訓練を行っています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%	0%	てんかんがあった時の行動や対応などを保護者と共有し、てんかんが起きた時は動画を撮影し、保護者に送って共有しています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	83%	17%	食物アレルギーのある子どもについては、今年度から医師の指示書を提出してもらい、内容を確認しながら対応できる体制を整えています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	定期的に安全点検を行い、不備があった場合には修繕等の対応を行うなど、子どもたちが安全に利用できる環境づくりに対応しています。	
51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%			
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	ヒヤリハットが発生した際には教室内で内容を共有し、再発防止策を検討した上で職員へ周知しています。これにより、安全管理につながるよう対応しています。		

53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	社内研修だけでなく、外部講師を招いた虐待防止研修を実施し、会社全体で研修の機会を設けています。また、会場での研修に参加できない場合には、後日教室で資料や動画を視聴し、職員全体で内容を共有できるよう対応しています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%	0%	身体拘束に関する同意書をもとに、どんな時が対象になるかやどういう対応をするかを説明している。そのうえで個別支援計画書にも記載している。	